
パズル

音遠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パズル

【Nコード】
N8893B

【作者名】
音遠

【あらすじ】
——海の底でキミは、あたしの還りを待っている。

・プロローグ

＊

——あたし自身が気付かないうちに“あたし”は、何かを忘れていく……。

こうして笑いあっている、今も。

キミを好きだと想う気持ちも。

仲間を大切にしようとするココロも。

いつの間にか、あたしは現在^{いま}を“過去”と呼ぶようになって……
そして、忘れて行く。

忘れたくない、足掻^{あが}いても褪せてゆく記憶たち。

心に一番に描く人は、常に“あの人”であって欲しいのに……。

過去は現在^{いま}に勝てなくて——。

現在の記憶に塗りつぶされて行く過去たちは、行き場をなくして
朽ち果てる。

誰かに会えば、記憶を盗み取られてしまってしまうでしょう。

キミと出逢えたあの日のこと、キミと笑いあったあの日のことも
——。

喉を震わせれば、キミが零れ落ちてしまう。

この気持ちはあたしだけのモノ。

誰にも覗かせない。……触れさせなんか、しない。

流れる時に身を委ね、迎が来るなら喜んで受け入れよう。
……海の底でキミは、あたしの還りを待っている。

・窒息のセカイ

＊

息苦しいセカイの中で上手く生きていくために、感情を捨てる必要があった。

——何かを手にするためには、何かを犠牲にする必要があるから……。

「うつざあーい！ マジ、ありえないんだけどあー」
今時の喋り方。相槌あいづちを打つタイミング。
やっと最近、その“業”わざを習得することが出来た。

毎日やり取りするメール。

がるがもの親子の様に、何人も連れて入るトイレ。
生活の中での愚痴、妬み。

ココロの中で生きるあの人を、“過去”おもいでにしない方法は一つだけだった。

あたしが数年かけて、見つけた答え。

どんなに滑稽だとしても、馬鹿にされたとしても……これがあたしの答え。

「ねー、奈緒ちい。……今日、北高の男子誘ってカラオケやるんだけどさー、もちろん行くよね？」

綺麗にデコレーションされた携帯を弄りながら、カナがあたしに尋ねる。

——“尋ねる”んじゃないくて、“確認”してるだけなんだけど。

「もっちー！ 行くに決まってるじゃん？ てかー、ちゃんと格好良い人揃えてるよねーっ!？」

みんなに合わせる声のトーン。短いスカート、あたしの顔に馴染むことがない化粧。

耳にあけた小さな穴。

あたし自身を殺すことで、あたしは“地位”を得た。

「オケオケーっ！ じゃー、ホームルーム終わったら即靴箱ヘダーッシュねー!」

ホームルームの始まりを告げるチャイムがなると同時に、カナは手をひらひらと振って去って行った。

チャイムが鳴るとクラスメイト達は、のろのろと自分の席に着き始める。

鞆を取り出して、教科書を詰め込むような“素振り”をアピールしていた。

——誰も、教科書を持って帰ることはしない。

家に帰って課題をする事もないし、もちろん机に座ることもありえない。

それが“高校生”の実態。

中学を卒業すると、中学とは全く違うニュアンスを持ったセカイへと入る。

中学とは違う、上下関係。——上辺だけの友達。

すべてを上手くこなして行くためには、“自分自身を殺す”しかなかった。

そうでもしなければ、クラスでは浮いた存在になる。

いじめの対象になりやすいし、みんなは遠慮がちに用事のあるときにだけ話しかけてくるだけの寂しい孤独少女になってしまう。

あたしにとって、孤独そうちの方が自分自身を殺すことより辛かった。

・青春ライフの第一歩？

「うっし！ みんな揃ったっばい？」

鏡で自分の髪型や化粧を確認しながら、みんなに話題を振る。

いつもとは違う、バツチリと完全防備をした態勢のみんなはいつもより一段と高い声で「揃ったあ」とカナに告げた。

浮かない程度に、鏡を持って髪型や似合っていない化粧を確認する。

「カラオケへゴーツ！」

カナがリードをとって歩き始めた。

その後ろをキャツキャツ、と女の子らしい声を発しながらカナの後を続いて行く。

校門からさほど離れていない場所にある、オシャレなカラオケボックスへと着いた。

北高の男子はもう、全員揃っているようでカナが部屋に入って何かを話している。

カナが北高の男子と話している間、揃った乙女メンバー（略して乙メン）は鏡を見て自分自身を確認していた。

——何度見ても、自分が変わるわけじゃないのになあ。

あたしも一応、確認するフリをする。

……自分だけ浮くなんてこと、ありえない。

「んじゃ、入って入ってーっ！」

カナがそう言って、“A”と書いてあるドアを開けて手招きをした。

甲高い声を上げながら「どーもあ」と語尾にハートをつけるような勢いでみんな、入って行く。

新学期、彼氏をGETしてしあわせな青春ライフを送りたいらしい。

みんなより控えめにお辞儀をしてから、男子の間に挟まれるようにして座った。

「席替えとかするけどー、その前にさあ……自己紹介しよーよお」
カナが猫なで声を出しながら、みんなに提案する。

周りにいた乙メンも「賛成ーっ！」とかわいらしい仕草を見せた。

「んじゃー、俺達からねー。俺は北島 渚！きたしま なぎさ 部活はサッカーします」

日に焼けた顔で人懐こい笑顔を作りながら、挨拶をする長身の男。笑うと目じりに皺が出来て、優しい雰囲気を一層強めていた。

「よろしくー！」と誰かが言ったあと、後から続けるように可愛らしい声で挨拶が続く。

「次、オレー。みやじま 宮原 奏多そうたっつーの！ 部活は、帰宅だから彼女が出来たら毎日デートしたいと思ってるー」

軽そうな感じの男が、挨拶をする。

口調が独特で、でも整った顔立ちに乙メンはもうメロメロになっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8893b/>

パズル

2010年10月8日23時52分発行